



員にならないのが通例だが、当夜は雨天という悪条件にも拘らず大入りで嬉しい悲鳴をあげたことだった。これらの好評に自信を得た団員一同は、今後とも技術の向上に精進すべく意気込みを示しているところである。

こんどの定期演奏会で特筆すべきことは「京響」のクラリネット首席奏者であった村瀬二郎君の入団を得て、彼のソロでモーツァルトのクラリネット協奏曲が聞けたことだ。

そして、朝日新聞の音楽評論で就筆担当の大野敬郎氏の来場を賜わったことは、嬉しいことだった。今まで何回となく特別演奏会や定期演奏会に評論家の先生方にもご案内してきたが、足を運んでもらえなかつたのだが、今や音楽団は、音楽界で、その演奏技術の進境に注目を浴びてきたことを物語る。

ついでながら、「京響」といえば文化都市の面目にかけて京都市が巨費を投じて直営する交響楽団であり、地方都市直営として全国唯一でその存在は常に高く評価され、指揮者も歴代カール・チエリウス、近衛秀麿、森正、外山雄三、この四月から渡辺暁雄の各氏といずれも斯界一流を迎えて、演奏技術の確かさを誇るシンフォニーである。村瀬君はその「京響」の発足の昭和三十年以来クラリネット首席奏者として著名であり、三十九年六月には西ドイツのラインフィルハーモニーに客員奏者として招かれた経歴の持ち主である。

シンフォニーでは弦楽器であるバイオリンが主旋律を占めるのに対し、ブラスでは木管楽器であるクラリネットが主旋律を奏するから、この強化は今後の音楽団の技術向上に少なからぬ貢献を示すものと期待される。

## EXPOバンド

「人類の進歩と調和」をうたう日本万国博覧会はいよいよ本月十五日から開幕されるが、この世紀の祭典の幕あけを告げる開会式典は、十四日午前十一時から天皇・皇后両陛下ご臨席のもと宇宙中継により世界一を誇るお祭り広場で花やかに挙行される。万国博の成功を期すこのオープニング式典は規模の大きさなど話題づくめだが、二、四〇〇名の出演者とともに大阪府音楽団も出演する。

また、一八〇日間の会期中を一カ月交代で大阪市音楽団と交互出演することになつており、EXPOバンドとして既にユニホームも揃えられている。

式典関係ではほとんど一日おきぐらいに開催されるナショナルデーがあり、三月中だけでも、十八日コロンビア、十八日香港（スペシャルデー）、二十日コストリカ、二十三日メキシコ、二十五日ヨーロッパ経済共同体（スペシャルデー）、二十六日チリ、二十七日イラン、三十日ネパールと続き、いずれもファンファーレ

や国歌演奏が予定されている。参加各国の国歌に誤りがないよう、国際信用にもかかわる重大なセレモニーだから慎重に楽譜を取扱つているところである。

催し物関係では、十五日から三十日までお祭り広場の大屋根の下で夜間行事としてトツプを飾る「万国博がやつてきた」の企画があり、カナダのブラスバンド交歓やシカゴ消防隊ブラスバンドの演奏があり、これにも音楽団が出演することに内定している。この催しは開幕シーンにふさわしい明るく楽しいプログラムになるものと期待している。

さて、万国博出演で得た経験を生かし、今後とも更に洗練された音楽団として成長し、公共性を自覚して府民の要望にこたえるよう精進したい。

（教育文化課）